

# YES JAPAN 体験談

牧野 廉

国際基督教大学教養学部国際関係学科3年生  
YES JAPAN2009に参加  
米国カリフォルニア大学サンタクルズ校に留学中



1年後、10年後、20年後...自分の人生を振り返ったときに、「YES が人生の転換点だった」と自信を持って言えると思います。約20カ国30人以上の学生達と過ごした東京での2週間は、人生において本当にかけがえのない経験となりました。

あまりにも濃い二週間だったので、この体験談ではすべて語り尽くせません。ただあえて一言でまとめると、そのプログラムの名の通り (Youth Encounter on Sustainability)、自分にとってYESは「きっかけ・出会い」だったと思います。経済・政治・経営・社会・心理・化学・生物・哲学・環境など、ありとあらゆる分野に関する集中講義とグループワーク、東京や富士山でのフィールドトリップ、芸術性溢れるアートワークショップ、日本人の皆でソーラン節を披露した文化交流パーティ、討論の末に徹夜で仕上げたグループプロジェクト、バスケットボールのスポーツ大会、プログラム後に皆で組んだ東京・鎌倉・日光弾丸観光ツアーなどなど。知識として学んだこと、経験として学んだこと、価値観として学んだこと、そして、共に過ごして得た大切な仲間たち。笑あり、楽あり、苦あり、涙あり.....YES で過ごした2週間は、今の自分への、そして、将来に向けた「きっかけ・出会い」です。

実際にプログラム後は、YES で出会った大学のネットワークを通じて新たな勉強を始めたり、新たな学生 Sustainability ネットワークに出会ったり、YES の友達を訪ねに東欧や中東を旅したりと、自分にとって YES は大きな「きっかけ」でした。また、Sustainability というトピックを通じて環境・経済・社会問題などを知ることで、自分と人々、自分と社会、自分と自然、自分と周りがどう関わって生きていくのか、自分のライフスタイルについて考えさせられるようになりました。一般的に Sustainability というと、Sustainability=持続可能性とそのまま訳されて使われていますが、結局はひとりひとりが皆とどう生きていくのかについて、ともに考え、実践していくことが Sustainability の意義であるのかなと思います。そこに明確な答えは用意されておらず、その多様なあり方を模索する、果てしなく続くプロセスなのではないでしょうか。

2週間という短い期間の中でプログラムから得るものは、もちろん人によってそれぞれです。しかし、そこには人それぞれの「きっかけ」が必ず見つけられるはず。そして、その「きっかけ」は、新たな「きっかけ」へと将来繋がっていくでしょう。また、前述のように、経済、政治、生物、芸術、哲学、環境、スポーツなど、分野の垣根を問わず、Sustainability に興味のある方、国際交流に興味のある方、誰でも応募可能です。将来の社会を担うであろう、若い世代の学生達とともに過ごす2週間。ぜひ、YES プログラムで「きっかけ」を見つけてみてください。

(2009年12月6日)

